

告示	番号	33	内分泌疾患
	疾病名	高プロラクチン血症	

高プロラクチン血症

こうぶるらくちんけっしょう

概念・定義

プロラクチンは、下垂体前葉のプロラクチン分泌細胞から分泌され、視床下部からの抑制的な調節をうけている。重度の高プロラクチン血症は、その多くがプロラクチン産生下垂体腺腫（プロラクチノーマ）によるものである。

症状

高プロラクチン血症による性腺機能抑制のため、小児では思春期の遅発や進行停止が認められる。成人女性では、乳汁分泌と無月経、男性では性欲低下を呈する。また、マクロプロラクチノーマでは、下垂体前葉機能低下症や、頭痛、視力・視野障害を伴うこともある。

治療

プロラクチノーマ治療の第一選択はドパミンアゴニストである。超長時間作用型で消化器系の副作用が少ないカベルゴリンが繁用される。0.25～0.75mg/日を、週1～2回服用する。薬剤抵抗例や副作用が強い症例では、経蝶形骨洞的手術が適応となる。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/5_6_9.html